

## (1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

	行動計画・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果 今後の方針
教科指導を充実させ、学力向上をはかります	<b>(シラバス)</b> 1 22年度のシラバスをWeb公開します。 <b>【取組状況の指標】</b> 12月末までに各教科での検討の実施。 <b>【達成状況の指標】</b> 22年度当初にシラバスのHPへのアップ。	取り組みの指標とした期日までに23年度の全必修教科目のシラバスについて検討し、作成できた。 HP上でのシラバス公開の実施まではまだ至っていない。	生徒の学習状況により授業進度を調整するため、シラバスとのズレが生じている。HPへの公開にむけてその点の解消方法の検討が必要である。 また、生徒にとって活用しやすいものにするための検討を継続して行う。
	<b>(課外授業)</b> 2 希望者対象の課外授業を実施し、生徒の学力向上を図ります。 <b>【取組状況の指標】</b> 平日放課後、土曜、夏季休業中に、年間計画に基づいて実施。 <b>【達成状況の指標】</b> 課外授業の参加者数、および生徒アンケートの結果。	<b>【平日課外】</b> ・参加率 76.5% ・満足度(役に立ったと思う) 79.9% <b>【土曜課外】</b> ・参加率 60.5% ・満足度(役に立ったと思う) 86.3% <b>【夏期課外】</b> ・参加率 76.8% ・満足度(役に立ったと思う) 88.3%	満足度調査は参加者からのアンケートである。 役に立っているとあまり思わない・思わないの値が <b>【平日課外】</b> 17.5% <b>【土曜課外】</b> 12.8% <b>【夏期課外】</b> 10.0% その他の参加生徒は「分からない」との回答である。 継続して満足度の向上に努める。
	<b>(土曜日の有効活用)</b> 3 自学自習の態度を養うため、毎土曜日に学校を開放し、指導者がアドバイスします。 <b>【取組状況の指標】</b> 長期休業期間を除く毎土曜日の学校開放の実施。 <b>【達成状況の指標】</b> 学校開放実施率100%。	3月12日以外、全ての土曜日を開放(学習の為)を実施。土曜課外は、ほぼ隔週のペースで課外授業を実施した。 参加率 60.5%(平均) 満足度(役に立ったと思う)・「少し思う」計) 86.5%。 土曜開放ほぼ隔週以上のペースで行った。 土曜開放の利用者は、1年658人、2年697人、3年1,281人の利用があった。(2月末)	クラブ活動と補習・課外のバランスを常に意識しつつ、生徒が部活動と学習の両立ができるようサポートしてゆく必要がある。 課外に関して生徒の不満足度(「役に立っていない」「あまり思わない」の回答)は、土曜課外 12.8%(平均)と一定の数があるので、内容・回数両面で更に充実したものにしよう努力したい。
	<b>(施設管理)</b> 4 課外授業等の教科活動が円滑に行われるように教室等施設の使用調整を行います。	各学年、教務部と協議し調整を行った。	調整を行ったが不備が多々あった。職員がルールを共有し、職員間の対話が活発に行なうようにする。
21世紀の社会を支える一員に足る資質を育てます	<b>(生徒指導全体)</b> 5 衛生看護科の移転を見すえて、分校と本校の生徒指導を調和させる。 <b>【取組状況の指標】</b> 本校と分校の月1回程度の意見交換の実施。 <b>【達成状況の指標】</b> 本校と分校との生徒心得の統一。	衛生看護科の生徒指導部との協議を3回開いた。また総務部や教務部との合同協議も2回持った。細部にわたる事は電話やメールで意見調整をし、生徒心得を統一することができた。	H23年度4月以降、新しい生徒心得を元に指導をして行く。最初から完璧な生徒心得は無理なので、生徒の実態や教員の共通理解のもと修正を加えながら指導に当たる。
	<b>(人権教育)</b> 6 三重県人権教育基本方針に基づき、人権感覚あふれる学校づくりを目指し、生徒一人ひとりの自己実現を図ります。 <b>【取組状況の指標】</b> 教師と生徒がともに人権について学ぶ機会を設けるとともに、積極的に学校外とのネットワークづくりをします。 <b>【達成状況の指標】</b> 年1回以上人権講演会を実施し、生徒アンケートを集約する。学校外との定期的な意見交換。	人権LHRのテーマは、生徒の課題に応じ、1年生は「同和問題」、2年生は「様々な人権問題」とした。指導案を学年会・人権委員会で検討し、全職員に周知の上、1・2月に計2回、人権LHRを実施した。2月のLHRは全クラスを外部に公開した。	班別討論や生徒による発表など、各クラス様々な工夫がみられた。 全クラスの報告書とアンケートを集約・検証し、職員に還元した。これを来年度以降に役立てていく。 各学年の学習テーマが妥当であったかを、今後検討する必要がある。

<p>部活動を振興し、心身の健全な育成を図ります</p>	<p>(部活動の振興) 7 学習活動と部活動を両立させる指導を進めます。 【取組状況の指標】 学習活動も部活動も両立できるタイムシェアリング実行する。 【達成状況の指標】 活動成果は前年度並みを目標とする。</p>	<p>課外や模試がある土曜日については、クラブと両立できるよう顧問や担当の先生方に配慮した。放課後の課外とクラブ活動の基本的な時間分けは、うまく機能していない面もある。 今年度当初のクラブ加入率は、87.85%であり、前年度の83.8%と比較すると、多少増加した。クラブの活動成果は昨年度並みであった。</p>	<p>学年・担任・顧問との連携を密にし、生徒がクラブに参加しやすい環境作りを行う必要がある。 また、生徒の自主性を育てていくこと、教職員が対話を重視していくことが必要である。 クラブ加入が強制ではない中で、8割以上の生徒がクラブに加入している状況を今後も維持していきたい。</p>
	<p>(心身の健全な育成) 8 教育及び健康相談を促進し、生徒の心身の健康増進を図ります。 【取組状況の指標】 「教育相談室だより」を毎学期発行する。 【達成状況の指標】 気軽にカウンセリングを申し込める。相談生徒の状態悪化をくいとめる。相談傾向を把握する。</p>	<p>教育相談便りを各学期に1回発行した。スクールカウンセリングを周知し、相談生徒の支援に努めた。相談生徒に対し、適切なカウンセリングを行うことができた。</p>	<p>相談生徒について、学年と連携を取り保護者へのサポートもできた。 担任と連携を取り、カウンセリングが必要な生徒の早期発見に努めていきたい。 生徒が相談をしやすい雰囲気作りを行っていきたい。</p>
	<p>(生徒への働きかけ)「生徒モニター」を創設し活用します。桑高の学校文化をより洗練し魅力化します。</p>	<p>「生徒モニター」などを活用し、「自主」「自律」がはかれるよう啓蒙に努めた。</p>	<p>毎日学年別に、モニターは掲示を行った。本年度からの導入のため成果については来年度より生徒アンケートではかりたい。</p>
<p>進路指導を充実し、生徒の主体的自己実現を助けます</p>	<p>9 (第1学年) 【取組状況の指標】 長期的視点で、オープンキャンパスの参加者を増やします。 【達成状況の指標】 その感想レポートを1人1本、100%の提出を目指します。</p>	<p>オープンキャンパスは全体の25%くらいしか参加していなかった。大学を知ろうという意識を持った生徒が少ない。残念である。</p>	<p>来年はオープンキャンパスに全員参加させたい。</p>
	<p>10 (第2学年) 【取組状況の指標】 オープンキャンパスに1人1校以上参加させます。 【達成状況の指標】 感想文にしレポート提出をさせます。</p>	<p>多くの生徒がオープンキャンパスに参加し、新たな魅力を発見して来たようであったが、レポートの提出率は85.2%にとどまり、90%を達成することはできなかった。</p>	<p>オープンキャンパスに参加してレポートを書いたことは、今後志望理由書を書いたり面接試験うけたりする時に生きてくる。今年オープンキャンパスに行った学校から志望校が変わる場合にも、新しい志望校を実際に見に行くように勧めたい。</p>
	<p>11 (第3学年) 国公立大学を第一志望している生徒が9割近くいるため、第一志望を諦めない指導を続けます。 【取組状況の指標】 「進学先別サミット」を新たに実施します。 【達成状況の指標】 国公立大学180名以上合格を目指します。</p>	<p>推薦AO合格者は国公立大学20名と過去11年間で最高の成績。私立大学は53名。 前期において国公立大学前期だけで126名。中期2名、後期22名、合計170名 私立大学は延べ873名合格。南山大学は現役143名、立命館大学88名と記録的な成績を残した。 国公立大学も京都大学5名を始め、名古屋大学に19名、三重大学に55名と多くの合格者数をだした結果、170名と過去11年間で最高の結果である</p>	<p>高く設定した目標数値に到達は出来なかったが、11年間で最高の成績であった。 今後、最後までやりきる指導を学年だけでなく、学校全体でスクール・アイデンティティとして確立する必要性がある。</p>
<p>V 組織力の向上</p>	<p>12 教職員の過重労働を減すと共に教職員の満足度を向上させます。 【取組状況の指標】 職員満足度のアンケートを行う。 【達成状況の指標】 昨年度より満足度の値が高くなることを指標とする。</p>	<p>昨年より加重労働は、平均値で減少しているが、職員満足度では、「必要なとき休暇を取得できるか」2.7(4点満点)と高いが、「昨年度に比べて仕事が精査されたか」1.8(4点満点)と昨年より低く仕事の精査が必要である。</p>	<p>年度初め学校プロフィールに基づき毎年、仕事の精査を行っていく必要がある。</p>

V 組 織	<p>13 ガルーン(グループウェア)や共有サーバーを活用して業務の効率化につとめます。 【取組状況の指標】 ガルーンの利用、共有フォルダの活用。 【達成状況の指標】 ガルーンの利用数、共有フォルダの活用実績</p>	<p>ガルーンの利用は非常によく浸透している。 共有サーバーも十分に活用されており、個人情報の保護、業務の効率化の面で貢献している。</p>	<p>現在の活用状況が維持されるように、転入者への啓蒙、機器のメンテナンス、改善などに努めたい。</p>
力 の 向 上	<p>14 Webページや「保護者メール」を利用して、保護者への適切な情報発信につとめます。 【取組状況の指標】 Webページの更新、「保護者メール」の配信を行う。 【達成状況の指標】 Webページの更新(年間10回以上)、「保護者メール」の適切な運用。</p>	<p>28通(2月現在)の保護者メールを発信し、保護者への適切な情報提供に努力した。 webページの更新については、各行事などの様子を紹介するなど随時行った(10回以上)。</p>	<p>保護者メールについては現在の活用状況を維持していきたい。 webページについては、より魅力的な情報発信が望まれる。システムも含め、誰もが見やすいように改善していきたい。</p>
	<p>15 職員が自由に話し合い議論でき、教職員が相互に理解しあえる環境を整えます。 【取組状況の指標】 学校経営品質の積極的な活用。 【達成状況の指標】 学校経営品質に基づき議論を重ね、活性化することにより何が変わったかを指標とする。</p>	<p>学校経営品質委員会を15回、学校経営品質職員研修会を行ってきたが、職員満足度アンケートの結果は「自由に意見が言える雰囲気があるか」2.3(4段階)「職員の対話は、活発に行われているか」2.1(4段階)と低かった。</p>	<p>昨年は5段階評価で一概に比較できないが職員が自由に意見が言えるか、対話が行われているかに関しては毎年低い。 来年は2.5以上の満足度を得られるように、学校経営品質の取り組み活性化させる必要がある。</p>
	<p>16 分校移転の円滑な実施を進めます。 【取組状況の指標】 移転の具体を企画運営する職員が主体となって、オフサイトミーティングを開くなどして、本校分校の意思疎通を積極的に諮ります。 【達成状況の指標】 分校移転の23年4月実施。</p>	<p>分校の移転に関して総務部が中心となり10回以上の本校と分校の打ち合わせ、お互いの各分掌の話し合いを行った。逐次、各分掌が参加して行なった。</p>	<p>移転に向けた話し合いは十分に行われた。来年度、実際に運営していくときにさらなる問題点を精査したい。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

	アセスメント診断から明らかになった状況	左記の状況を判断した理由
強 み	<p>職員が日々の仕事にやりがいを感じ、仕事を通じて自己成長していると感じている。成果も出ている。</p> <p>校内での研修への積極的な参加について職場の支援や協力が充分行われている。その結果教職員のスキルが上がって生徒の満足度も上がっている。</p>	<p>「仕事にやりがいを感じていますか」の満足度2.8(4段階)、生徒の満足度も高い。アセスメントにおいても「学習者」の理解と対応が全て2.7以上で他に比べ高い数値である。</p> <p>「校外での研修への積極的な参加について職場の支援や協力がありますか」の満足度2.8を得ている。多くの職員が研修で授業力を高め、予備校主催の研修会にも、延べ104回参加、職員満足度も5段階の2.8(4段階)と高い。</p>
弱 み	<p>a 職員間の対話が活発に行われていない。多忙感の解消、自由に意見の言える雰囲気作りが必要である。</p> <p>b 昨年度に比べ、仕事が精選されてきたという実感を職員が持っていない。</p>	<p>a 職員満足度アンケートで2.1(4段階)の満足度であり、「自由に意見が言える雰囲気があるか」の問いにも2.3で低い。多忙感もある。</p> <p>b 職員アンケートで5段階の1.8(4段階)で、このことについて満足度が最も低い。仕事の精選を行っていない。学校プロフィールに合わせ目標を定め、仕事の精査を行う必要がある。</p>

(3) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<p>1 職員の対話を活性化させ、自由に意見が言える雰囲気作りための取り組みを「学校経営品質委員会」中心に検討し、取り組んでいく。</p> <p>2 毎年、仕事を精選して新たな目標に向かって取り組んでいくシステム作りを検討し実行するため、本年度は学校プロフィールを見直しを行ったので、目標を定めた取り組みを行う。</p>